福島県中学校長会広報

・会長挨拶「就任の挨拶」…… 1
・平成30年度第68回福島県中学校長会…… 2
・平成30年度　組織及び役員一覧…… 2
・学校教育の今日的課題
「学校経営を考える」…… 3
・平成30年度中学校長会の活動と運営… 4～5
・平成30年度第69回全日本中学校長会総会報告… 6
・支会情報と特色ある経営
（福島・石川・南会津・いわき）…… 7～10
・新会員紹介　新入会員の声…… 11
・随想「出会いに感謝」…… 12

就任の挨拶

福島県中学校長会長　伊藤隆幸
（福島市立福島第一中学校）

今年度の会長を拝命いたしました。力不足ではございますが、ご指導、ご支援を賜りながら会長職を全うして参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、本年３月末をもってご勇退されました校長先生方のご功績に敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に対しまして感謝を申し上げます。

さて、東日本大震災及び原発事故から「７年」が経過いたしました。今春、５町村において地元での学校再開となりましたが、未だ、避難先で教育活動を継続している５校、休校２校とまだまだ厳しい状況が続いています。相双地区では再開後の生徒数の小規模環境への対応等の課題は山積みで学校は厳しい状況のままであり、それぞれの生徒の心のケアなどの支援策を講じながら、諸条件整備に当たっているところです。

また、県内の各学校においても、様々な課題と向き合いながら、全教職員の英知を結集しながら効果的な教育課程の実施に努めていただいているところです。

今年度、10月12日には、福島県中学校教育70年記念式典、第46回福島県中学校長会研究協議会県中県南大会が石川町において、県内中学校長が一堂に会し開催されます。本県中学校教育の一層の充実・発展に大きく寄与するものであり、県中県南地区各支会様には、心からの感謝を申し上げます。

ところで現在、本県の学校教育が当面する課題としては、学校再開、心身の健康、放射線教育、防災教育の推進に加え、新たな教育改革制度、働き方改革への対応など多岐にわたっております。また、平成31年の新学習指導要領完全実施に向けての対応にも取り組まなくてはなりません。そのような中において、本校長会の運営については、様々な状況下にある各学校の実態を踏まえ、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」という基本方針の基に、各専門部会を中心に充実した活動を展開しております。

今後も、校長は、「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことをさらに肝に銘じ、ふるさと福島の復興と進展に寄与すること、さらに、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮し、教育課程の効果的な運用と教育環境の整備を図りながら、子ども達に「生き抜く力」を身につけさせることに努める事が肝要であります。

運営に当たりまして、次の４つの観点を重視して取り組んで参ります。

1　校長会は、校長自らの見識・資質等を高める研修の場であることを踏まえ、その成果等の効果的な活用（教育行政への提言等）を推進します。

2　「全日中教育ビジョン」を踏まえ、学校からの教育改革に努めます。

3　教職員としての誇りと使命感を持ち不祥事の絶無に努めます。

4　教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善に努めます。

今年度も各支会の活動と連携を図りながら各専門部会の積極的な取組を通して、諸課題の解決に向けて活動を推進して参ります。

終わりに、子どもたちが郷土への誇りと自信、将来への「夢」と「志」を持ち、本県の復興と発展を担う人材とし成長するために、「生き抜く力」そして「未来を切り拓く力」を育めるよう、会員の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げ、就任のあいさつといたします。

平成30年度
第68回福島県中学校長会総会

平成30年度の第68回福島県中学校長会総会は、４月25日㈬福島県教育会館において開催されました。

総会では、高橋卓夫福島県中学校長会会長代行のあいさつの後、議事に入り、平成29年度会務・事業の承認及び決算報告が上程通り承認され、続く平成30年度の役員選出では、満場一致で伊藤隆幸氏（福島市立福島第一中学校）が新会長に選任されました。

新会長からは、次期学習指導要領等教育改革に向けた対応、学力向上、いじめ・不登校、教員の働き方改革等の喫緊の諸課題に対して組織を挙げて取り組んでいくこと、また、今年度開催される第46回福島県中学校長会研究協議会県中県南大会及び、福島県中学校教育70年記念式典を機に各中学校と福島県中学校長会の一層の充実・発展を図っていきたいとのあいさつがありました。さらに、震災後７年となるが「学校は復興のシンボルである」ことを再認識し、学校の復興を着実に進めるため、校長会として寄与していくとの思いも話されました。

その後、平成30年度の事業計画及び予算案が審議され原案どおり承認されました。

総会後の小・中合同開会式では、小・中学校を代表して古関明善小学校長会長があいさつし、続いて来賓を代表して、福島県教育委員会教育長鈴木淳一様、福島県市町村教育委員会連絡協議会会長佐藤玲子様、元県小学校長会長加藤征男様より祝辞をいただきました。最後に、前県中学校長会長福地憲司氏が退会役員を代表してあいさつをされ、式を閉じました。

平成30年度　組織及び役員一覧

※　理事が２名いる支会（福島・郡山・いわき）の会長：◎印
※　常任理事：○印

役職名		氏名	勤務校
会長		伊藤隆幸	福島一
副会長	行財政	小針伸一	福島二
	研究	町田壽章	若松六
	進路指導	梅田善幸	原町一
	生徒指導	阿部博	郡山五
監事		荻野由則	郡山三
		星純一	若松二
		反畑増生	川内
理事	福島	◎小針伸一	福島二
	福島	伊藤隆幸	福島一
	伊達	鈴木昭夫	伊達
	安達	○粂田惣男	安達
	郡山	◎阿部博	郡山五
	郡山	堀田隆	郡山一
	岩瀬	長場壮夫	須賀川一
	石川	小玉陽彦	石川
	田村	髙橋秀章	船引
	東西しらかわ	○永山美雄	棚倉
	北会津	町田壽章	若松六
	耶麻	○星裕次郎	塩川
	両沼	板橋健一	坂下
	南会津	馬場俊忠	田島
	相馬	梅田善幸	原町一
	双葉	○荒木幸子	楢葉
	いわき	◎草野仁	内郷一
	いわき	高濱俊彦	勿来一

【事務局】

事務局	事務局長	佐藤晃	福島四
	行財政部会長	神野與	信陵
	研究部会長	安斎康仁	清水
	進路指導部会長	石川幸男	渡利
	生徒指導部会長	渡辺康弘	平野
	広報部会長	西牧伸弘	岳陽
	庶務	大越一也	北信
	会計	目黒満	飯野

学校教育の今日的課題

―学校経営を考える―

福島県中学校長会副会長　梅田　善幸
（南相馬市立原町第一中学校）

学校経営の喫緊の課題はいろいろ挙げられるかと思います。その中のいくつかについて考えてみたいと思います。

まず、働き方改革について声高に叫ばれていますが、その中でも教員の多忙化解消に注目が集まっています。OECDの調査からも日本の教員の労働時間が他国に比べて、突出して長いことが示されているのはおわかりの通りです。

特に、中学校教員の部活動における負担の大きさはたいへんなものだと言えます。これまでも適正化プログラムで改善を図ろうということはありましたが、なかなか思うように進んでいなかったことは事実かと思います。ここに来て、多くの地区で市町村教委を中心に動き出し、部活動における休養日についての取り決めが行われています。本市においても、平日１日及び土日いずれか１日合わせて週２日間を部活動休養日とすることが３月に通知されました。主な大会等がある場合は、１か月前から校長の判断により週１日の休養日とすることができるという付帯事項も付いています。様々な反発も予想されたところですが、いまのところ順調に推移している状況です。競技の練習量等の公平性の立場からも、今後県内全地区がその方向性に動くものと思います。

次に、学校におけるルーティーン業務がきちんと行われているかということです。ミスの多い組織には創造性や戦略性を求めることは不可能であると言われます。職員のミスから発生した問題の処理に管理職の時間が無駄に費やされていたのでは、もったいないことです。ルーティーン業務への意識を高めることが、ひいては、教務主任や管理職の多忙化の解消に繋がります。

また、事務職員、養護教諭等との連携をどこまで図っていけるかということも大切です。事務職員等には、学校の内や外の様々な情報が入ることもあり、それをどう生かすかということを大事にする必要があります。そして、生徒たちにとって利害関係のない大人であることから生徒の意外な情報が入ったりもします。そういう点からも、関係づくりを重視すべきです。

そして、保護者や学校関係者に対するアンケートについて考えてみると、その結果を見て専門家でもないのに評価の判断材料にすべきと言えるのかという項目はないでしょうか。開かれた学校づくりが重要だとはいえ、保護者・地域住民等の意見をただ丸呑みして聞くのではなく、聞いて戦略的な判断材料にしていく必要があります。学校における保護者・地域住民等の意見を聞くことに過度の期待を寄せることはどうかという意見もあります。その中で、校長の判断が重要になってきます。

さらに、校長として人を育てる、教員を育てるということが重要であると考えられます。「教育は人なり」、教育の成果は、教員の力量にかかっていることは確かです。校長として、育成することを常に念頭に置きながら、教員に真摯な姿勢で対応することが求められます。また、OJT（オンザ・ジョブ・トレーニング）つまり現場での実践訓練が一番力を付ける方法であると言えます。ただし、教科の素養等バックボーンが貧弱だと成果は上がらないことも忘れてはならないと思います。そして、教員は児童生徒に育てられるという面もあります。教員と児童生徒が学び合う学校、お互いに切磋琢磨しながら成長できる学校、そんな学校が理想ではないでしょうか。

平成30年度『県中学校長会の活動と運営』

事務局長　佐藤　晃

現在、社会を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化の進行、高度情報化や国際化の急速な進展、安全・安心への関心の高まり、ライフスタイルや価値観の多様化など急激に変化しています。一方、本県においては、東日本大震災及び原子力発電所事故から７年が経過したこの春、川俣町（山木屋地区）、飯舘村、浪江町、葛尾村、富岡町の小中学校が地元での学校再開を果たすなど復興の歩みは着実に進んでいます。しかしながら、再開後の学校の小規模化への対応や長期化した避難生活等による心身の健康の保持・増進、放射線教育・防災教育の推進、風評及び風化の問題など本県独自の課題に加え、学力の向上、いじめや不登校の解消、新学習指導要領への対応、教職員の多忙化解消等、学校教育に関わる課題は山積しています。

私たち校長は、これらの社会情勢の変化や未曾有の災害から着実に復興の歩みを進める本県の状況を的確にとらえ、ふくしまの復興の担い手である生徒たちに対して人間尊重を基盤としながら、困難に直面してもたくましく臨機応変に行動できるいわゆる「生き抜く力」の育成を目指して、学校経営の充実に努めることが肝要です。また、「学校は、復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことを肝に銘じ、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮し、チーム学校として課題解決に組織的に取り組み、地域の特質を踏まえた活力に満ちた学校づくりに努め、県民の信託に応えていかなければなりません。

平成28年３月に全日本中学校長会から「全日中教育ビジョン　学校からの教育改革」改訂版が発刊されました。その中の第３章では、10の提言がなされ、平成31年度までの３年間で取り組むべき具体的な目標として示されています。本県校長会としても、この提言を受け、更なる中学校教育の充実・発展を目指し、活動を推進していく必要があります。

また、10月12日㈮には、石川町を会場に福島県中学校教育70年記念式典及び福島県中学校長会研究協議会県中県南大会の開催を予定しています。現在、各支会においては、会員の皆様の英知を結集し、全日本中学校長会の研究主題である「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」（本主題による研究４年次）を受け、昨年度中に作成した平成30年度「研究の手引き」に基づき、新たに設定された８つの小主題に対する実践研究を推進しているところです。研究協議会においては、実践研究の多くの成果を持ち寄り、協議を通じて共有し、さらに深め合い、校長としての資質の向上と学校経営の改善に資する実り多い機会となることを期待しています。

さらに、今年度も各種調査等をとおして、本県教育の充実･振興に向けた課題を明確にし、教育行政をはじめ各種団体、関係機関等への要望等、働きかけを行い、より強固な連携を図っていきます。福島県教育委員会の「頑張る学校応援プラン」に基づき、今年２月には、教員の指導力、学校のチーム力の最大化を図るための手立てとして多忙化解消アクションプランが示されました。各市町村教育委員会や各学校においては、プランの進捗状況や成果と課題を具体的に検証していかなければなりません。

今後とも、各支会との連携の強化を図るとともに、県小学校長会や高等学校長協会、その他関係諸機関との連携に努めながら諸課題の解決を目指していきたいと考えております。

会員の皆様の深いご理解とご協力、そして積極的な取組をよろしくお願いいたします。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小中学校長会の活動方針を踏まえ、互いに連携を密にしながら教育行政上の課題解決のために、組織的・継続的な対策活動を推進します。東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から７年が経過しましたが、学校現場は復興へ向けて様々な課題を抱えています。その状況を把握し課題解決に向けて対応するために、行財政に関する調査において特別調査を継続して実施します。

１　活動の重点

○　多様な教育活動に対応するための教育諸条件の整備・充実

○　教職員の待遇改善と福利厚生の向上

○　当面する重要課題の調査研究と課題解決

２　調査研究活動

⑴　平成30年度「教職員人事の反省」

⑵　調　査　Ⅰ：教職員配置等に関する調査

※　本年度はここに多忙化解消のためのアンケート調査を加えました。

⑶　調　査　Ⅲ：教育施策の実施状況調査

⑷　特別調査：大震災･原発事故の影響に係る調査

以上の調査結果を分析し、課題を明確にして要望活動の資料とします。調査結果については、ホームページに掲載します。

３　要望活動

県中学校長会の伊藤会長、県小学校長会長の古関会長を中心とする要望団を結成し、９月に要望活動を行います。要望先は、福島県人事委員会、福島県議会議員政党等を予定しています。

４　教育懇談等

福島県教育庁関係者との懇談を８月23日に予定しています。アンケート調査をもとに、行政への働きかけをして課題解決に当たります。

（行財政部会長　神野　與）

● 研 究 部 会 ●

1　共通理解に基づく共同研究の推進

(1)　全日中理事会説明より

これまで、研究主題は３年ごとに改訂しており、現行の主題は平成29年度まで継続し、平成30年度については、新しい主題で迎えるのが通例です。しかし、平成30年度の研究主題を検討・提示する年度に当たる平成28年度末に学習指導要領の改訂が予定されていたため、この時期に主題の改訂を行うのは適切でないという判断から、現行の研究主題を４年間継続し、平成31年度から、新しい主題の下で研究協議を進めることとしました。

(2)　本県の考え方

研究主題は継続されたものの各小主題及び研究の内容・視点は変更されたため、新たに平成30年度版「研究の手引き」を作成しました。また、研究領域・発表担当支会については、平成30年度～33年度まで１年延長して４年間としました。平成30年度については、４年目に継続された研究主題の下、１年間の研究とし、10月12日の福島県中学校長会研究協議会県中県南大会において、研究の成果や課題を発表・協議し、研究集録にまとめていきます。

2　全日中、東北地区中と連携した研究の深化

6月28日、29日に開催された東北地区中山形大会でいわき支会が研究成果を報告しました。また、全日中鳥取大会においても研究の成果を報告します。

3　原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

今年度も、研究集録の中に継続して、「ふくしまの今」～双葉支会の現状～を掲載し、本県の抱える課題等を全会員で共有化します。

（研究部会長　安斎　康仁）

● 進路指導部会 ●

1　「生き抜く力」をはぐくむキャリア教育の視点に立った進路指導の充実

(1)　進路指導体制の改善・充実
- 進路指導の活性化をめざす校内体制の改善
- 新学習指導要領を見据えた進路指導の充実

(2)　適正な進路指導推進のための資料収集、整備活用の工夫
- 情報の収集・整理、活用と進路相談の充実
- 特別支援学級等における進路指導の充実を図るための資料収集と実態把握

2　高等学校入学者選抜方法の改善に向けて高等学校や関係機関との連携

(1)　高等学校との連携
- 高等学校長協議会、私立高校協議会との話し合い活動の推進

(2)　高等学校入学者選抜方法の改善、提言活動の推進
- 県立高等学校入学者選抜事務調整会議での要望、意見等の資料作成
- 新入学者選抜の内容と方法に関する情報提供と対応、意見集約と提言

3　適正な進路指導の充実のための諸調査と資料の提供

(1)　進路指導に関する諸問題の把握と資料提供
- 平成29年度末進路指導に関する調査の分析と連携のための資料提供
- 平成30年度末進路指導に関する調査
- 県下一円の進路動向調査の実施と有効活用

(2)　学級活動の時間の充実のための副読本編集
- 「中学生活と進路（県版）」の編集と活用

(3)　就職指導、専修学校・各種学校等の選択指導のための指導助言活動の推進
- 就職情報の収集と関係機関との連携強化

（進路指導部会長　石川　幸男）

● 生徒指導部会 ●

本県中学校長会として、生徒指導の充実を図るための基盤づくりを強化するとの共通理解に立ち、生徒指導の機能をいかすとともに、規範意識を高める指導を継続します。

特に、東日本大震災及び原発事故に起因する生徒指導上の課題並びにネット端末の利用等今日的課題に対応しながら、生徒の心の問題や安全・安心に配慮した対策を施します。

そのための組織の強化として、積極的に関係機関との連携を図ります。特に、小学校との連携を重視します。

1　高い規範意識と望ましい人間関係を基盤とした集団づくりに努めます。
- 共通理解・実践に基づく一貫性ある学習、生活習慣づくりの推進
- 教職員の協同体制を基盤とした指導方針による校内規律の維持

2　震災、原発事故等にかかわる課題と当面する諸課題の把握、その解決や未然防止に組織を挙げて対応します。
- 震災、原発事故にかかわる生徒指導上の問題行動の実態把握
- 不登校、いじめ及び虐待の実態把握と「チーム学校」としての校内支援体制の確立
- ネット端末利用状況等の実態把握と小学校やPTA等と連携したネット端末利用改善への提言と実践

3　小学校及び高等学校、家庭、地域、関係機関、団体との連携を強化します。
- 情報交換による問題行動の共有
- 一貫した基本的学習・生活習慣づくりと規範意識の育成

4　生徒手帳を編集、刊行します。

（生徒指導部会長　渡辺　康弘）

● 広 報 部 会 ●

広報部会は、広報誌「福島県中学校長会広報」を年２回発行するとともに、県校長会のホームページの維持・管理を行い、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ新しい情報などを提供し、活用促進を呼びかけ、広報活動の充実に努めます。

1　本会及び関係団体等の活動や動向についての情報を提供し、広報活動の充実を図ります。

(1)　本会の組織・運営、事業内容、活動状況の報告

(2)　各支会の活動及び、本会活動への会員の意見や感想の紹介

(3)　関係団体等の活動概要の報告

(4)　広報誌の発行とホームページの運営、資料の整理

2　関係機関・団体等との連携を深め、情報を提供します。

(1)　関係機関からの情報把握と会員への早期周知

(2)　諸活動の報告など

（広報部会長　西牧　伸弘）

第69回　全日本中学校長会総会報告

５月24日・25日に、第69回全日本中学校長会総会が、東京都国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催され、総会と講演、文部科学省行政説明が行われました。本県からは、伊藤隆幸会長以下12名が出席しました。

第１日目の午前に総会が開かれ、直田益明会長の挨拶、表彰、文部科学大臣からの祝辞がありました。会長挨拶では、昨年10月19日・20日の中学校教育70年記念東京大会で皇太子同妃両殿下の御台臨やお言葉、参議院議長、文部科学大臣からのお言葉等、有意義な大会であったとの報告がなされました。次に校長会として国への働きかけや昨年度の諸活動について、また引続き全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」についてオールジャパンでの取組推進の話がありました。

続いての議事では、平成29年度の会務報告・決算等について承認され、今年度の役員についての審議では第42代会長として山本聖志氏（東京都豊島区立千登世橋中学校）の就任が承認されました。山本新会長の就任挨拶では新学習指導要領の円滑な実施への校長会の取組や働き方改革への対応、そして全日中教育ビジョンの一層の推進に向けた抱負が力強く述べられました。

その後、平成30年度の活動方針・予算、平成31年度第70回群馬大会の主題及び分科会研究題について提案・承認が行われ、最後に宣言・決議を採択し議事を終えました。その後、第69回鳥取大会について連絡がありました。

行政説明は「当面する初等中等教育上の諸課題」の演題のもと、１日目の午後には文部科学大臣官房審議官から、２日目には文部科学省初等中等教育局の各担当から、全574頁に及ぶ膨大な資料を使って、以下の内容について説明がありました。

１　新学習指導要領の改訂と実施に向けて

○　主体的、対話的で深い学び
- 主体的とは「学びを自己調整できること」
- 対話的とは「考えを広げていくこと」
- 深いとは「教科の本質に根ざして探求できること」

○　カリキュラムマネジメントについて

２　いじめ対策について

○　いじめの定義とこれまでの経緯について
○　いじめ認知の学校間格差について
○　平成30年３月16日付勧告について

３　不登校児童生徒への支援について

○　教育機会確保法成立に伴う経緯、基本方針の策定について
○　重点施策について

４　特別支援教育の充実に向けて

○　特別支援教育の現状について
○　学校での交流・共同学習の推進について
○　障害者差別解消法の概要について
○　学校における合理的配慮について

５　新学習指導要領と働き方改革について

○　業務負担の軽減と教育の質の向上との両立
○　世界最高水準の我が国のこれまでの学校教育の良さを捉えなおす
○　教育の資源活用についての発想の転換

この他、東日本大震災後の修学旅行の状況について言及があり、特に福島県への修学旅行の実施について、資料をもとに全国の校長先生方に向けたお話がありました。福島県代表として、全国に福島を発信していただいたことに感謝と感動を覚えるとともに、今後の我が国の教育行政の方向性を理解する有意義な総会となりました。

支会情報と特色ある経営

福　島

福島支会の活動

福島支会長　小針　伸一
（福島市立福島第二中学校）

本支会は、福島市、川俣町の１市１町の計25校の会員で組織され､｢会員相互の職能の向上と地区中学校の充実振興に努めること」を目的とし活動している。25校の内訳は、公立中学校21校（福島市20校、川俣町１校）、市立特別支援学校１校、国立大学法人附属中学校１校、同附属特別支援学校１校、そして今年度より町立小中一貫校１校（山木屋小・中学校が避難先から地元に戻り、一貫校としてスタート）と多種で、校種を越えた情報交換も活発である。また、本支会の会員は、県中学校長会の事務局や各部会の部会長・幹事等を務め、さらには県中教研の事務局や各教科専門部長として、一人何役も担当するなど、忙しくも充実した取組を見せている。しかしながら教職員の年齢構成の偏りは本支会においても顕著であり、ここ数年、毎年会員は全体の３、４分の１にあたる６、７名が退職を迎えており、数年で全くメンバーが変わるという状況が続いている。支会組織・運営はもとより、県校長会、県中教研の組織、活動も含め、改めて「つなぐ力、つながる力」の重要性を実感しているところである。

本支会の活動としては、これまで同様、中学校長会単独で行う定例会（年７回）や研究協議会を中心に、小学校長会と連携した小中学校長会協議会における研修会、伊達支会、安達支会並びに高等学校長協会と連携した県北ブロック中高連絡協議会を開催するなどして目的達成、課題解決に努めている。また、喫緊の課題である後進育成・人材育成については、小中学校長会協議会主催の学校経営研修会（年８回）を一層充実させるともに、新任校長・教頭研修会や市教委と連携した講師等研修会（年６回）の充実に取り組んでいる。

また、小中学校長会協議会は教育課題に係るテーマを設定した教育懇談会を開催し、イコールパートナーとしての地教委との連携を深めている。

《学校紹介》

新たな山木屋中学校の開校

川俣町立山木屋中学校

川俣町山木屋の小中一貫校の開校式が４月に行われ、小学生５名と中学生10名の計15名が古里の学校に戻りました。新たな学び舎は山木屋小の校舎に特別教室等が増設され、充実した教育環境が整っています。全教職員が小・中の児童生徒一人一人の指導に当たることを意識し、主に以下の３点について重点的に取り組んでいます。

１　「確かな学力を身に付ける」ために

小・中学校の教員が同じ職員室にいるという利点を生かし、小学校での学びを確認しながら中学校の授業を構想しています。さらに一人１台のタブレットを活用して実験結果や資料を記録したり説明活動で活用したりしています。

２　「コミュニケーション能力を育む」ために

すべての授業において｢聞く･話す｣を重視し、ICT機器を効果的に活用する中で生徒同士が楽しく学び合うことができるようにしています。英語科では｢英語ルーム｣を設置し、英語教員やALTが常に在室しているため､休み時間等でも気軽に英語で語り合う雰囲気が整っています。

３　「心身の健康と体力向上を図る」ために

保健体育科では小学校の学習をもとに「学びのビジョン」を作成し小・中を連続した期間と捉え、運動能力の現状から授業を工夫しています。さらに外部指導員による体力向上の取組を日課表に組み入れ､全校生で取り組んでいます。

これらの活動を通して、児童生徒一人一人に寄り添ったオーダーメイドの教育活動を展開し自己実現を図ることができるように実践しています。さらに、７年ぶりに山木屋で学ぶ子どもたちの姿が復興のエネルギーとなるように、地域とのかかわりを積極的に行っていきたいと思います。

英語ルームでの学習の様子

（校長　齋藤　仁道）

石　川

石川支会の活動

石川支会長　小玉　陽彦
（石川町立石川中学校）

石川支会は、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町の５町村の中学校６校の会員で組織されています。県内でも会員数では最も小さな組織となりましたが、少ないながらも会員相互の連携を強固にし、県内一のまとまりのある支会になるよう会員相互の意思疎通を図り平成30年度がスタートしました。

校長会の会員数が少ないことで、校長会や中教研、中体連の組織が課題となりましたが、その課題を何とか工夫して解決することができました。

今後も課題はありますが、その解決に向け、６人の会員で協議し、良案を出しながら中学校長会の活性化を図っていきたいと考えています。

次に、本支会の特色ある活動を紹介致します。

１　「校長会、教頭会合同研修会」

毎年夏休みに各学校の校長、教頭先生方の合同研修会を行います。今年度は、８月21日に古殿町教育委員会の矢吹伸一教育長さんから、ご講話を頂く予定です。年に一度ではありますが、校長・教頭が合同で研修を行うことは管理職としての共通理解を図り、協働態勢で学校経営を行うという意味で意義があります。

２　「中学２年生対象の教育講演会」

この講演会は、石川地区６校の全中学２年生を対象に毎年11月に実施しております。これは、石川青年会議所の援助を頂き、講師を招聘し、講演会を行っています。今年は、11月27日㈫に予定しております。講師はまだ未定ですが、道徳教育に関する講演を予定しております。

３　「県中学校長会研究協議会県中県南大会」

10月12日㈮に石川町「八幡屋」で開催される研究協議会に向けて、現在、県中・県南地区の校長会と連携を図り、有意義な研究協議会になるよう準備や打ち合わせ等、着々と進めております。

《学校紹介》

保護者とのかかわりを大切に

玉川村立須釜中学校

本校は、全校生70名の小規模校ですが、開校以来「自立」「剛健」「友愛」の教育目標を掲げ、地域の宝として地域とのかかわりを大切にした教育活動を展開してきました。ここ数年は、「学び合い」「習熟別指導」を授業の中に生かすとともに、教育活動の基盤となる特別活動に力を入れてきました。また、毎週火曜日の朝に生徒会主体の全校朝会を実施するなど、生徒の自主的な活動を育ててきました。

しかし、学校教育アンケート調査の結果なども全体的に良好ではあったのですが、こちらの意図と保護者の意識にズレがあることが明らかになりました。学校だよりやホームページなどで積極的に情報を発信してきたのですが、それだけでは十分でないことがわかり、このことを課題として具体的な実践を試みました。

その取組は、『保護者と直接かかわる』ということです。その１つが情報モラル教育で保護者を交えてルールづくりをしたことです。全校集会に保護者も参加し、生徒たちのグループ討議に加わっていただきました。村長や警察署、健康福祉課などからも参加していただき、多方面からの意見のやりとりができました。生徒だけでなく保護者にとっても参画意識が高まったようです。その他、「家庭で道徳」と題して、家庭で道徳の授業の復習と評価をしていただきました。保護者にとっても道徳の内容について知る機会となり、アンケートの結果も良好でした。このように保護者と学校が直接にかかわる場面を積極的に設けることで、学校への理解を深めるだけでなく、保護者もまた成長する機会となったようです。

今後も保護者との関係を大切にした教育活動を展開したいと思います。

（校長　岡崎　寛人）

南会津

南会津支会情報

南会津支会長　馬場　俊忠
（南会津町立田島中学校長）

南会津支会は、神奈川県とほぼ同じ面積の広い郡内にある７校の中学校長で組織されています。昨年度は檜沢中学校が田島中学校と統合し、貴重な学校がまた１校減ってしまいました。少子化はどこでも叫ばれていますが、近隣の学校間で距離があるここ南会津では、「おらの学校」がなくなることは生徒はもちろんですが、地域の方々にとっても寂しさが一入のようです。

今年度は、７校中３校で昇任された校長先生をお迎えし、気持ちも新たにスタートしたところです。さらに、小学校長を合わせると半数以上の校長が転任及び新任となりました。行政機関や管外からおいでいただいた先生方に新風を吹き込んでいただいております。地元出身の校長先生が少なくなってきていることから、校長会の組織・運営や小中連携を含めて大きな転機を迎えました。

さて、本支会の主な活動としては、年６回の小中学校長協議会と同日に開催する中学校長会があります。地域と密着している小規模校が多く、行事等を含めて小中連携が必須であることから小中合同の会議において、５専門部と12の関係団体からの活動報告や学校経営に関する課題、生徒指導に関する情報交換等を行っています。

また、域内や各校の課題解決に向けて講演会などを実施して研修を深めています。今年度は域内に通級学級が新設されたことや特別支援学校の設置に向けた取組の充実などを図っていくために「学びのユニバーサルデザインを構築するために」と題した講演会を予定しています。

南会津支会では新任の校長が多いこともあり、経験や年齢の差を様々な面で情報交換や連絡を密に取り合うことにより解消していこうと話し合っています。家庭や地域の宝である生徒のよりよい成長のためを第一に考え、活動の充実に取り組んでいきたいと思います。

《学校紹介》

「四つ葉のクローバープラン事業」をとおして

下郷町立下郷中学校

下郷町では平成17年度から、児童生徒の学力向上、健全な心身の成長に向け、町内３つの小学校と１つの中学校が四つ葉のクローバーのように小中連携のもと教育を進めるための「四つ葉のクローバープラン推進事業」を13年間にわたり展開してきました。

この「四つ葉のクローバープラン事業」をいかしながら、平成26年度から３年間は、「つなぐ教育推進事業」を推進し、平成29年度からは、「学びのスタンダード事業」に取り組んでいます。ここで、「学びのスタンダード事業」における実践内容の一部を御紹介します。

国語科授業

(1)　国語科・数学科におけるタテ持ち授業の実施（各学年１組をA、２組をBが担当）
(2)　「授業スタンダード」を活用した授業づくりの日常化
(3)　「家庭学習スタンダード」を活用した家庭学習の工夫と学習習慣の確立
(4)　互見授業の定期的な実施により、校内において教員同士が学び合う風土の醸成
(5)　スタンダード推進教師による「スタンダードだより」の定期的な発行により、町内教員の指導力向上に向けた研修の充実　等

本校では、これらの実践をとおして、今後も研究のための事業推進ではなく、子どもたちの学力向上に向けて、実効性のある取組を推進していきたいと思います。

（校長　長沼　敬貴）

いわき

いわき支会情報

いわき支会長　草野　仁
（いわき市立内郷第一中学校）

いわき支会は、いわき市の39校で組織されています。昨年度末に11名の先輩方が退職、６名の方が転出され、今年度は新入会員10名、転入会員７名が加わり、組織も大幅に変わりましたが、いわきの未来を担う子どもたちの育成に向け、「一枚岩の校長会」を合言葉に各学校の教育課題へ対応しています。

また、いわき市小中学校長会連絡協議会が母体となり、各地区の実態に応じた小中学校の連携を進めています。

１　定例校長会及び校長研修会について

校長としての学校経営に関する実践研究や生徒の健全育成と自己実現のための生徒指導・進路指導の充実、教育諸条件の課題解決、教育活動向上のための情報発信について、５専門部、市内５支部を組織して活動しています。

２　生徒指導や進路指導の連携について

市内３警察署管内の公・私立小中高が年２回の学校警察連絡協議会を通して生徒指導上の課題を共有しています。また、地区ごとの中高の連携の他に、年１回中高特の懇談会で情報交換を行っています。

３　退職校長会との連携について

各地区の協議会や授業参観をはじめ、７月に退職校長会役員との協議会、１月に退職校長会の皆様と現職の全小中校長が一堂に会しての懇親会を行い連携を深めています。

４　東北地区及び全日本中学校長会について

今年度、東北・全日中では、いわき支会が「社会に開かれた教育課程の編成と実施」のテーマで発表します。昨年度から、いわき支会全員の協力支援の基に準備を進めています。福島県を代表しての発表であるとともに、大震災後の復興が確実に進んでいることも発信したいと思います。

《学校紹介》

ふるさとを担う子どもたち

いわき市立三和中学校

本校は、平成27年４月に４つの中学校が一つになり、新たな三和中学校としてスタートし、本年度からは、いわき市で２校目のコミュニティ・スクールになりました。

本校では、次代を担う三和地区の子どもたちにふるさとへの誇りと愛着を持ち、心豊かにたくましく生きることができるように「ふるさと教育」に取り組んでいます。この「ふるさと教育」の主な取組を紹介します。

１　「ふるさと教育資料」の活用

子どもたちの発達段階に応じた「ふるさと教育資料」を小・中学校それぞれで作成しています。その教材を生かし、先人の生き方を理解させたり、地域にある歴史や文化を学ばせたりしています。

２　地域人材を招聘し実施する総合的な学習の時間「私たちの考える未来町MIWA」

子どもたちは、NPO法人や地域の方々から話を聞いたり、指導を受けたりしながら、自分の住む地域「三和の未来」についての研究を行っています。子どもたちが地域の魅力を再発見し、地域をよりよいものにしていこうと考えるきっかけになっています。

３　学校・家庭・地域パートナーシップ推進事業

地域公民館にいる「地域コーディネーター」の支援を受けながら、「ふるさと教育講演会」や「史跡巡り」等、地域の人材や地域の教育力を生かした豊かな体験活動を実施しています。

今後も、未来を創り担っていく子どもの育成のために、コミュニティ・スクールとしての強みを生かし、新たな地域連携のしくみを構築し、「ふるさと教育」を推進してまいります。

（校長　須藤　瑞穂）

新会員紹介

支会	氏名	校名	支会	氏名	校名	支会	氏名	校名
福島	柳沼　哲	附属特支	南会津	室井正之	荒海	いわき	横田勝秋	久之浜
伊達	梅宮　賢	県北	南会津	鈴木路人	檜枝岐	いわき	津田直人	小川
安達	金成智子	白沢	南会津	横山泰久	只見	いわき	安田浩明	川前
郡山	班目芳光	御舘	相馬	堀川泰宏	小高	いわき	松﨑伯文	玉川
東西しらかわ	西田英実	鮫川	双葉	鴫原俊洋	浪江	いわき	矢吹教幸	湯本二
北会津	押部秀隆	東	双葉	中田敬介	富岡二(三春)	いわき	齊藤俊明	川部
耶麻	佐藤信昭	会北	いわき	松本　修	藤間	いわき	川上一美	入遠野
耶麻	木野秀樹	高郷	いわき	鈴木重則	赤井	いわき	新田泰尋	田人

新会員の声

縦の糸と横の糸

喜多方市立高郷中学校　**木野　秀樹**

自然と歴史のロマンあふれる高郷中学校に、この４月に赴任しました。子どもたちの明るい笑顔と先生方の教育に対する真摯さが心のよりどころとなる一方で、未だに校長としての仕事がちゃんとできずにいることへのふがいない思いも感じていて、こんな状態でいいのだろうかと自問する日々が続いています。

そんな中で、耶麻校長会の先生方の存在は大きな支えとなっています。気の置けない同い年の校長先生や同じ支会の先輩の校長先生方が、たぶんこんなこともわからないのかというような質問にも、優しく丁寧に教えてくれます。

よく物事を成すときの縦と横のつながりを、機織りにたとえて縦糸と横糸で表現しますが、校長会における校長先生方の存在は、正にその横糸のような存在であるような気がします。

では、縦の糸はというと、これまでの出会いの中でお世話になった多くの校長先生方の存在がそれにあたると思います。校長として赴任するにあたり、温かい励ましの言葉とともに参考となる資料をたくさんいただきました。式辞や会合の挨拶文例をはじめ、職員会議の示達事項、講話の題材などは、恥ずかしながら早速使わせてもらいました。かつていただいたリーダー論の書籍はもう一度読みました。つくづくその存在と学んだことの大きさを感じずにはいられません。

新任校長として学ばなくてはならないことは、まだまだたくさんありますが、これからも縦糸と横糸を丁寧に編み込みながら、自分なりの美しい布を織りなしていきたいと思います。

子どもたちの未来に向けて

富岡町立富岡第二中学校　**中田　敬介**

午前８時過ぎ、スクールバスを出迎え、旧工場の間の舗装路を子どもたちと一緒に玄関まで歩くのが、本校の朝の風景です。現在、富岡一中・二中三春校は、企業の元社屋だった校舎に、幼稚園児や小学生と10名の中学生がともに生活しています。数は少ないながらも、子どもたちの元気な声が一日中響き渡り、にぎやかで楽しい学校です。玄関先に子どもたちと職員が大切に育てている草花が、絶えることなく咲いているのが少し自慢です。着任して２ヶ月余りが経ち、授業や部活動へ楽しそうに取り組んでいる生徒の姿に幸せを感じる一方で、校長としての責任の重さを改めて感じているところです。

５月の運動会は、今年度、富岡町に再開した富岡校と合同で行いました。保護者や町民の皆様から熱い声援を受けながら、子どもたちの元気な姿を披露することができました。１回限りの合同練習で迎えた運動会でしたが、両校の距離を感じさせない子どもたちのチームワークと演技の姿に胸が熱くなりました。

震災から７年が経過し、富岡町に学校が再開され復興が着実に進んでいますが、子どもたちを取り巻く環境は、困難な状況であることに変わりありません。今年度の重点目標は「何事にも挑戦し、自己表現する生徒の育成」です。富岡の子どもたちは、困難をチャンスとして捉え、生きる力へ変えようとする挑戦に取り組んでいます。変化が激しい社会において、子どもたちが将来自立し、よりよく生きるための力となる基盤づくりを担う教育を行うとともに、可能性を引き出し伸ばす学校づくりを先生方と共に目指してまいります。

随想

出会いに感謝

福島県中学校長会副会長
阿　部　　博
（郡山市立郡山第五中学校）

高校の採用試験に落ちた私は、縁あって現任校に保体科の講師として１年間お世話になりました。右も左もわかりませんでしたが、当時の同教科の先輩先生に、どんなことがあっても毎時間の時案を書いてから授業に臨みなさいと教えられ実践しました。教員人生のスタートとなった学校で退職を迎えることができることをありがたく、心から感謝しているところであります。

中学校教育の魅力に惹かれた私は、翌年会津若松市の大規模中学校に採用されました。何と新採で中教研の県大会授業者を仰せつかり、それがどういう意味なのか知る由もありませんでした。しかし、市内の先生方が何度も集まり、私の指導案を丁寧に修正してくださいました。授業がどうだったかより、お世話になったことの方が強く心に残っています。陸上部をもち、市の駅伝大会で区間賞を三つ取りながら総合３位だったことも、素人指導者として忘れられない記憶です。

次に南会津の中学校に３年間勤務し、初めて免外教科を担当しました。生徒と過ごす時間が多く、地域との連携も密でした。青年団と一緒に部活動を指導したり、早朝野球をやったりした仲間の多くが、今では村の中心人物です。彼らにしてみれば私が校長であることに、あの阿部が…と思っているに違いありません。早朝、理科の先生と一緒に尾瀬に行き、様々な植物名などを教えてもらったことは忘れられない思い出です。

三校目は岩瀬地区の学校にお世話になりました。赴任時、校内組織も決まっておらず、生徒も荒れた状況にありました。当時の校長先生や教頭先生のリーダーシップのもと、力を合わせて連携した結果、部活動などの対外的な活躍が学校を落ち着かせました。自分の野球部も、いわきの大親友の学校（県大会常連校）にお世話になり試合を組んでもらいました。初めは３回で16点位献上し、合同練習に切り替えたものでした。やがて県大会に出場できるように成長したことは感慨深いものがあります。

四校目は、郡山市勤務で、校則改正で長髪を県内で最初に認めることになった学校でした。ここでも生徒指導や部活動にあけくれる毎日でしたが、ある校長先生に、管理職への挑戦を諭され、これが部活人生の大きな転換期となりました。この学校には長い年数を勤めました。中学時代の投手が、21世紀枠でエースとして甲子園の土を踏んでくれたのは最高のプレゼントであり、最大の喜びでありました。

その後、市内２校で教頭職を務め、小中一貫教育校に校長として着任しました。小学校教員と初めて一緒に勤務しましたが、きめ細やかな指導の積み重ねにより、中学校教育が成り立っていることを実感することとなりました。一方、部活動や高校入試に一喜一憂する中学校の文化に触れたことは小学校の先生方にも影響を及ぼしたと思います。部活動の指導を小学校教員が申し出たことは、正直嬉しかったです。また、算数が研究教科の教員に思い切って中学３年の数学を担当してもらいました。つまずきの原因の一部に、小学校で身に付けておくべき内容があり、その教員自身や教科担当者の授業改善に大いに役立ちました。今、９年間を見通した学びの連続性が叫ばれていますが、まさにその通りだと思います。

その後、行政勤務となりましたが、原発事故後は、業務内容が一変しました。年間二度の人事事務、臨時の校長会議は３月中に６回、子どもの屋外活動時間の制限（３時間ルールの策定）、市及び民間スイミング施設と連携した水泳授業、給食の安全確保のためのシンチレーション検出器の導入、校庭の表土除去、文科省から放射線測定器「はかるくん」の借用と配付、放射線マップの作成、さらにJAと連携した地元米の給食使用については、母親団体などと何度も話し合いを持ち、JAにはPTA単位等での視察も受け入れていただきました。何から何まですべて手探りの毎日でした。浜通りの校長先生に避難している児童生徒を支援するため、支援センターに勤務しながら、各学校を訪問していただいたことは、ご自身も大変な中、本当に頭が下がる思いでした。県内はまだまだ復興半ばであり、全日中でも風化はさせないと、新旧会長から会員に伝えられています。

最後になりますが、これまで述べましたように、何か特色のある実践をしてきたわけでありませんが、どの学校や場面においても、良い出会いがあり、人に恵まれた38年間でありました。まさに縁尋機妙・多逢聖因であると感謝の気持ちで一杯です。残りの10か月弱、少しでも恩返しができるよう、職務を全うするつもりであります。

■発行　福島県中学校長会　〒960-8107 福島市浜田町４番地16号 富士ビル２Ｆ　電話 024(534)5320
■編集　西牧伸弘・佐藤成紀・佐川仁邦　■印刷　㈲吾妻印刷